

SOA NEWS

VOL-9 No. 7

1989. 7. 1

(通巻 第86号)

定期購読料 700/円

埼玉県サイクリング協会 〒336 浦和市岸町3-17-42 埼玉県青少年会館内 TEL/FAX 048-824-2711

SCAラリーへの お誘い

恒例となっています埼玉県サイクリングラリー（SCAラリー）が下記の要領で開催されます。今回は高麗川べりでバーベキューを行います。

期日 平成元年8月6日（日）
場所 民宿「川波」飯能市白子204
TEL 04297-8-1493

*武蔵横手駅より高麗川上流
500m右岸

集合 11時

定員 100名

参加費 会員 2,000円（バーベキュー参加章他）、一般 2,500円（同上+保険代）

申込 7月27日(木)までに協会事務局か芝川サイクルへ参加費をそえて申し込んで下さい。

*芝川サイクル TEL/FAX 0482-51-0187

〒332 川口市栄町1-14-11

持ち物 会員証、保険証、地図、
雨具、その他必需品

その他 1)会場まで集中サイクリングしてください。2)問い合わせは協会事務局まで。



SCAクラブラリー のご案内

恒例の第11回SCAクラブラリーが下記の要領で開催されます。

期日 1989年8月19日(土)～20日(日)
雨天決行（異常気象の時中止）

場所 野田市 清水公園

主催 埼玉県サイクリング協会

主管 しらこぼとサイクリングクラブ
（東部支部）

参加費 協会会員 4000円
一般 5000円

集合場所 野田市清水公園キャンプ場

集合時間 19日午後5時

日程 19日 17:00 集合、
受付、テント設営 18:00 夕食準備
19:00 夕食 20日 6:00

起床、朝食準備、朝食 8:00 テン
ト撤収 9:00 サイクリング出発
12:00 越谷総合公園にて解散

持ち物 米一人一合、食器、会員
証、毛布又は寝袋、ライト他

申し込み 7月31日までに協会事務局又はしらこぼとサイクリングクラブ（ヒビヤサイクル日比谷達夫方：☎343 越谷市赤山町6-10-26 TEL 0489-62-4638）へ

サイクリング 江戸川周辺

その他 1)テント、炊飯道具は主催者側で用意します。

2)トイレ、水道があります。

3)シャワー、駐車場は有料です。

センチュリーラン 埼玉終了する

第4回センチュリーラン埼玉がさる6月4日(日)、秋ヶ瀬運動公園を主会場として開催された。朝から照りつける太陽のもと参加者は自己への記録にチャレンジした。

6時30分、集合した役員は打ち合せの後各配置につき準備を進める。

7時から受付・車検が始まり、すでにチェックを済ませた参加者の中には、今回から変わったコースの再確認をする慎重派もいた。

7時20分、星野副会長の挨拶に続き渡邊理事長から走行上の注意を受け、

7時30分まず北コース(荒川大橋)がスタート、7時40分南コース(秋ヶ瀬運動公園)がスタートする。

8時06分、ハーフコースのスタートが終わり役員はひと時の休みを持つ間もなく北コースの走者がつぎつぎと現れる。毎度おなじみの顔がそこにあった。暑かったせいもあってか休憩時間をたっぷりとっていた。一息入れた走者は再びサイクリングコースを鎌田橋へと向かった。

12時頃からまずハーフセンチュリーの走者がゴールする。初めて参加した人が多かったようだが、来年はぜひセンチュリーの方へエントリーしてもらいたいものだ。

14時過ぎにはセンチュリーの走者もゴールを始める。毎度おなじみのオーマンディーさんも今回の暑さには閉口したようだ。杉山監事(60歳:今回最高年齢者)も規定時間ぎりぎりにゴールし健在ぶりを披露した。

今回のコースは前回までのような険しい峠(正丸峠等)がなく平坦地コースであり、中にはもの足りないという人もいたが概ね歓迎された。

大会本部を秋ヶ瀬運動公園管理事務所内に設置したが、いろいろ使用上のトラブルはあったが、役員・参加者にとっては貴重な施設であった。

今回も無事大会を終了することができましたのも役員並びに参加者のご協力のおかげと感謝しています。ただ残念なのは役員に対する参加者の労い気持ちが少し欠けていたことだ。

役員各位にお忙しい中お手伝いをいただきありがとうございました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

参 考 記 録 (八位以内)

センチュリー (160 km)

- ①橋本 秋男 6.10'30"
- ②牛込 房邦 6.27'00"
- ②鈴木 茂 6.27'00"
- ④黒田 知男 6.36'00"
- ⑤金輪 義孝 6.50'00"
- ⑥ア.ス.ホ-ワ 6.53'00"
- ⑥M.オマンディー 6.53'00"
- ⑥斎藤 徳司 6.53'00"
- ⑥久保 周一 6.53'00"

ハーフセンチュリー (80 km)

- ①金子 弘 3.22'20"
- ②植原 徹 3.29'35"
- ②宇野 隆 3.29'35"
- ④小久保茂 3.30'00"
- ⑤小林 次雄 3.38'20"
- ⑥野口 清和 3.41'10"
- ⑥久保田隆也 3.41'10"
- ⑧斎藤 幸雄 3.46'40"
- ⑧吉沢 潤 3.46'40"

< 関係諸団体 >

○青少年指導者養成講座開催

地域や職場における青少年指導者の為の講座が開催されます。

期日 (前期)平成元年8月25日～27日
(後期)平成元年10月7日～8日

会場 人間青年の家

受講資格 次の条件を満たす者。

- 1) 満18歳以上の者で34歳以下の者。
- 2) 地域や職場で青少年の指導的立場に有る者又は指導を志す者。
- 3) 研修の全期間(前・後期)を継続して参加できる者。

経費 交通費以外は主催者負担

その他 1) 詳細は協会事務局まで問い合わせ下さい。

○ヤングスクエアさいたま'89

前回お知らせしたヤングスクエアさいたま'89の新しいニュースが届きましたのでお知らせします。

これは、青年の積極的な社会活動の促進と、青少年団体相互の交流を図り、各種団体が絆を結んでネットワークを造り、21世紀への埼玉の創造に向けて、青少年の連帯意識の向上を図ることを目的として開催されます。

日時 11月5日(日)9時～3時(予定)

会場 大宮駅周辺(予定)

テーマは次のとおり

1. 詩の展示(大宮駅コンコース)
国際交流を基本に
2. 爆発の広場(JACK大宮)
若者の夢や叫びほか
3. アーティスト広場(鐘塚公園)
若い芸術・芸能の発表

以上3つのテーマで行われる予定です。皆さんの積極的な参加を期待しています。これからもこのヤングスクエアさいたま'89に関するニュースを掲載していきます。

担当 UCC山崎・小峰

< 雑学アラカルト >

* ラーメンの話 <2> *

札幌のラーメン横丁は観光客でいつも行列ができていますが、前回の話の分類で見ると札幌も、切麺(チエンミェン)と言うべきでしょうか

日本のラーメンも最近一部の店で拉麺(ラアミェン)を食べさせますが、全体的には切麺。これは語呂の点からなのか大正の頃よりラーメンと言われていたそう。

さて、札幌は北海道大の前、頃は、大正11年、竹家食堂に支那人コックの王文彩がラーメンを作っており店の品書きに拉麺とあった。

これが札幌ラーメンの元祖と言う説が有望である。

ちなみに、王さんの拉麺は、本当に拉麺であったとの事です。

東京ラーメンは、明治43年に浅草の来々軒で始まったと言われ、その当時浅草は、ハイカラな所でラーメンが流行ったとか・・・

ところでラーメンの具に欠かせないシナチクは台湾から輸入されており、当時日本人はこれを知らず、昭和の始め輸入業者がこの干筍(ほしたけのこ)を大量に買い売る手段に、水で戻して支那ソバに欠かせない物として売り、食せば珍味。これが全国に広まったとの説がある。

ギトギト油の博多、さっぱり東京と種々の味があるラーメン、スープの取り方も種々ありうまさを決めるのは、本や他人でなく自分ですよ。

UCC 水野久夫

<インフォメーション>

◎第一回インターナショナルチャレンジサイクリング進捗状況

市民レベルの自転車愛好者を対象とした、第一回インターナショナルチャレンジサイクリングはコース・要項等の作業も進み、現在警察、地元への協力依頼、協賛会社のリストアップ等の作業が連日行われております。正式要項等は8月にはお手元に届くように作業を進めておりますが、いろいろ障害も多く、四苦八苦の毎日です。

会員の皆様には参加されることはもちろんのこと、役員として協力いただきたくお願い申し上げます。ご協力いただける方は至急協会までご連絡下さい。

期日 平成元年10月21日(土)
～22日(日)

コース ①健脚コース100km
(山岳コース)、②一般コース50km

参加資格 性別を問わず16歳以上で、自己の責任でサイクリングのできる者(外国人、女性の参加を歓迎します。)

参加定員 500名(健脚コースには定員を設けます)

◎協会顕彰規定の一部変更について
協会顕彰規定の内サイクリング賞のポイントが下記のように変更になりましたのでお知らせします。

10点としてインターナショナルチャレンジサイクリングを加える。関東甲信越サイクリングラリー

を5点に変更する。「総合点80点以上を表彰する」→「総合点100点以上を表彰する」に変更します。

これから時々ポイントランキングを載せる予定にしています。

《事務局だより》

□事務局要員

7/30 原田、8/27 川村、9/24 中屋

□事務局夏休み

8/9～8/18

≒編集後記≒

□7/2から待望のツール・ド・フランスがはじまる。今年は何れがヒーローになるだろうか。いま国内でもツール・ド・XXXXがめじろ押しだ。協会行事として企画しているインターナショナルチャレンジサイクリングも一部新聞で「ツール・ド・秩父」と報道されるほど。市民レベルにサイクルレースの関心が高まっていることを感じさせる。インターナショナルチャレンジサイクリングは競争ではなくあくまでも自己への挑戦でありレースではないことを関係諸機関はもう少し理解してもらいたいと感じる今日このごろだ。

